

西名古屋火力発電所リフレッシュ計画

環境影響評価準備書

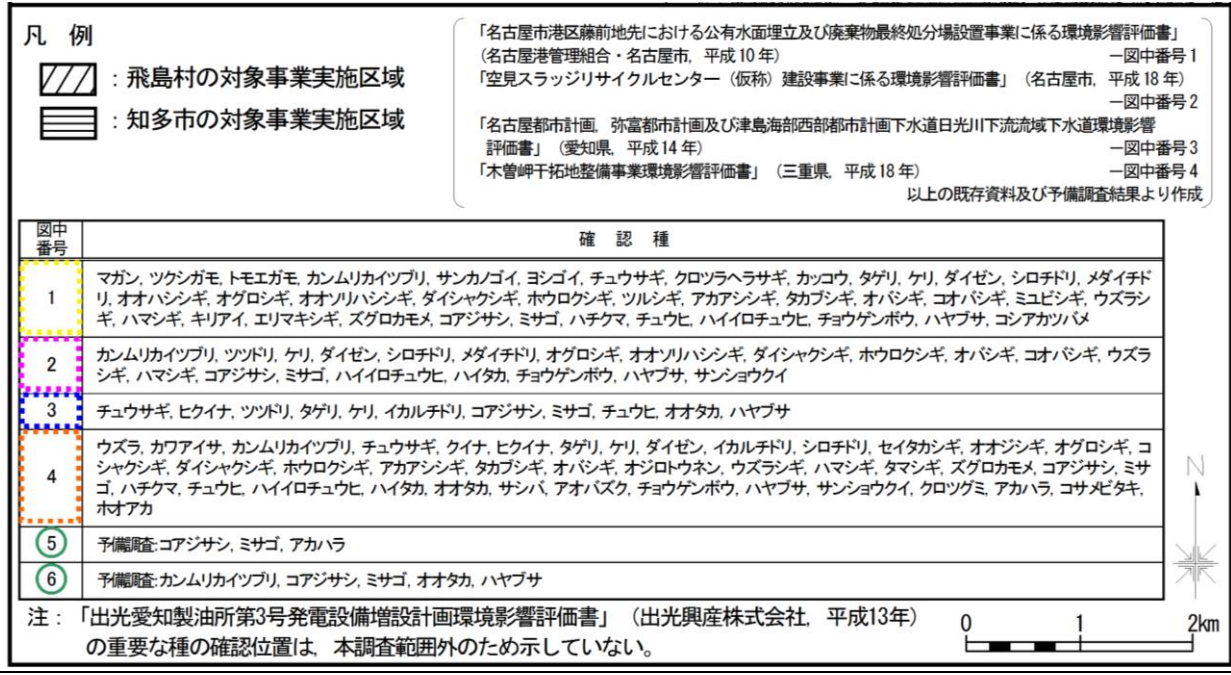
<正誤表>

平成25年2月

中部電力株式会社

誤

第 3.1-27 図(2) 陸域の動物の重要な種の確認位置 (鳥類)

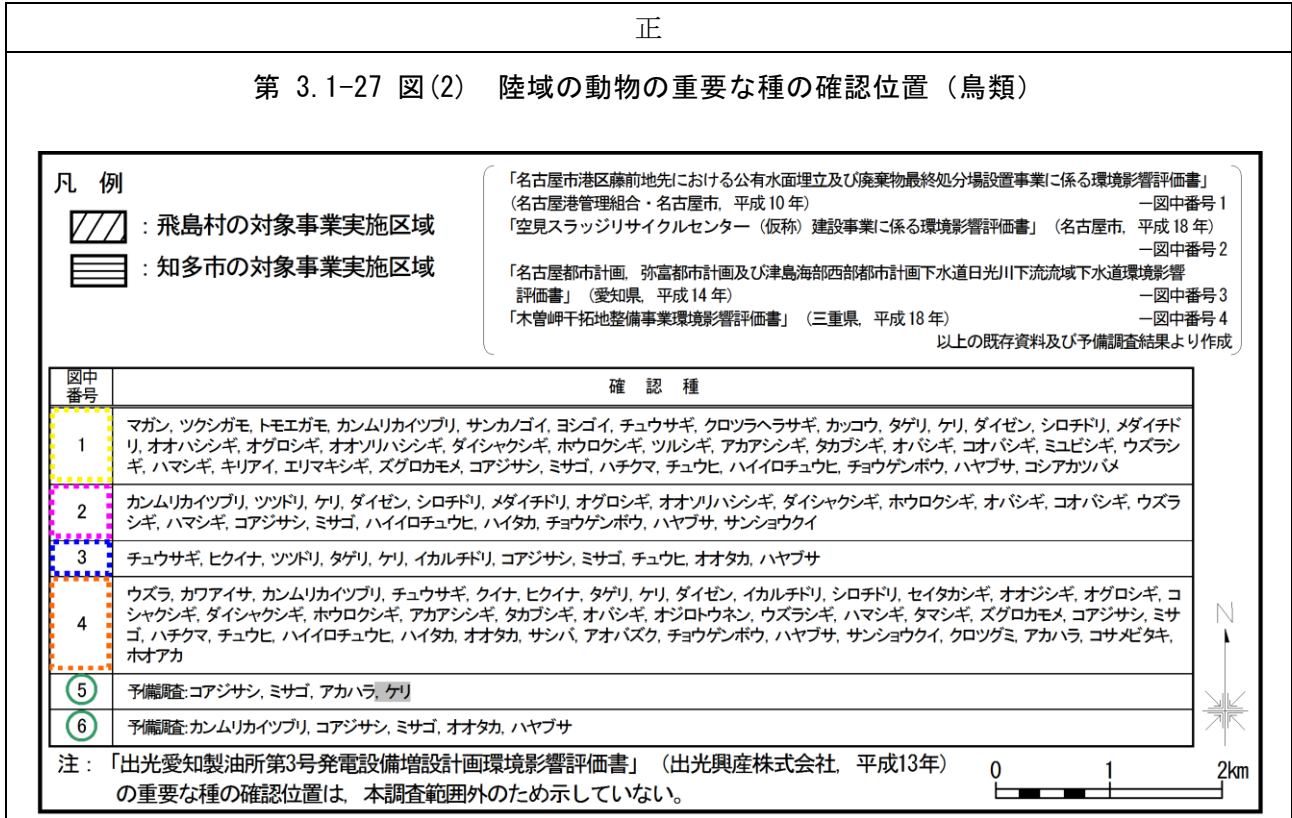


誤

第 8.1.1.1-33 表 予測地点における将来交通量 (工事開始後 14 か月目)

予測地点	路線名	車種	一般車両	工事関係車両	合計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,425	266	17,691	1.5
		大型車	13,992	134	14,126	0.9
		合計	31,417	400	31,817	1.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	10,149	76	10,225	0.7
		大型車	8,153	104	8,257	1.3
		合計	18,302	180	18,482	1.0

- 注: 1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、平日の 24 時間の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量(平成 26 年)については、現況交通量に伸び率(予測地点①の小型車 1.092, 大型車 1.000, 予測地点②の小型車 1.022, 大型車 1.025)を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17, 22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)一般交通量調査」(国土交通省)の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含む。



正

第 8.1.1.1-33 表 予測地点における将来交通量 (工事開始後 14 か月目)

予測地点	路線名	車種	一般車両	工事関係車両	合計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,425	266	17,691	1.5
		大型車	13,992	134	14,126	0.9
		合計	31,417	400	31,817	1.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	8,998	76	9,074	0.8
		大型車	6,579	104	6,683	1.6
		合計	15,577	180	15,757	1.1

注: 1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

2. 交通量は、平日の 24 時間の往復交通量を示す。

3. 一般車両の将来交通量(平成 26 年)については、現況交通量に伸び率(予測地点①の小型車 1.092, 大型車 1.000, 予測地点②の小型車 1.022, 大型車 1.025)を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17, 22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)一般交通量調査」(国土交通省)の結果から設定した。

4. 小型車の交通量には、二輪車を含む。

誤

第 8.1.1.1-35 表 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の日排出量

予測項目	予測地点	路線名	一般車両	工事関係車両	合計
窒素酸化物 ($m^3_N / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	14.409	0.142	14.551
	②	主要地方道 名古屋西港線	8.396	0.105	8.501
浮遊粒子状物質 ($kg / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	1.595	0.016	1.611
	②	主要地方道 名古屋西港線	0.930	0.012	0.942

注：予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

誤

ホ. 予測結果

予測地点における将来交通量の予測結果は、第 8.1.1.1-39 表のとおりである。

予測地点①（一般国道 302 号）では、工事関係車両の台数は 940 台であり、工事関係車両の占める割合は 3.3%である。

予測地点②（主要地方道名古屋西港線）では、工事関係車両の台数は 320 台であり、工事関係車両の占める割合は 1.9%である。

第 8.1.1.1-39 表 予測地点における将来交通量の予測結果
(工事開始後 19 か月目)

予測地点	路線名	車種	一般車両	工事関係車両	合計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	15,100	532	15,632	3.4
		大型車	12,788	408	13,196	3.1
		合計	27,888	940	28,828	3.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	9,092	152	9,244	1.6
		大型車	7,552	168	7,720	2.2
		合計	16,644	320	16,964	1.9

- 注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、工事関係車両が運行する時間帯（5～20 時）の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量（平成27年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.104、大型車1.000、予測地点②の小型車1.025、大型車1.029）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成17、22年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

正

第 8.1.1.1-35 表 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の日排出量

予測項目	予測地点	路線名	一般車両	工事関係車両	合計
窒素酸化物 ($m^3_N / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	14.409	0.142	14.551
	②	主要地方道 名古屋西港線	6.808	0.105	6.913
浮遊粒子状物質 ($kg / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	1.595	0.016	1.611
	②	主要地方道 名古屋西港線	0.753	0.012	0.765

注：予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

正

オ. 予測結果

予測地点における将来交通量の予測結果は、第 8.1.1.1-39 表のとおりである。

予測地点①（一般国道 302 号）では、工事関係車両の台数は 940 台であり、工事関係車両の占める割合は 3.3%である。

予測地点②（主要地方道名古屋西港線）では、工事関係車両の台数は 320 台であり、工事関係車両の占める割合は 2.2%である。

第 8.1.1.1-39 表 予測地点における将来交通量の予測結果
(工事開始後 19 か月目)

予測地点	路線名	車種	一般車両	工事関係車両	合計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	15,100	532	15,632	3.4
		大型車	12,788	408	13,196	3.1
		合計	27,888	940	28,828	3.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	8,118	152	8,270	1.8
		大型車	6,096	168	6,264	2.7
		合計	14,214	320	14,534	2.2

- 注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、工事関係車両が運行する時間帯（5～20 時）の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量（平成27年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.104、大型車1.000、予測地点②の小型車1.025、大型車1.029）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成17、22年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

誤	
<p>7. 環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>これらの措置を講じることにより、工所用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.26%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.09%，浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.04%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.03%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める工事関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）が 3.3%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 1.9%と小さい。</p> <p>以上のことから、工所用資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p>	

誤						
第 8.1.1.1-63 表 予測地点における将来交通量 (定期点検時)						
予測地点	路線名	車種	一般車両 (台) A	発電所関係車両 (台) B	合計 (台) C=A+B	発電所関係車両 の割合 (%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	19,656	162	19,818	0.8
		大型車	13,992	30	14,022	0.2
		合計	33,648	192	33,840	0.6
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	10,487	108	10,595	1.0
		大型車	8,455	20	8,475	0.2
		合計	18,942	128	19,070	0.7

注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、平日の 24 時間の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量（平成 31 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.232、大型車 1.000、予測地点②の小型車 1.056、大型車 1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17、22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含む。

正	
<p>7. 環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>これらの措置を講じることにより、工所用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.26%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.09%，浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.04%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.03%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める工事関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）が 3.3%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 2.2%と小さい。</p> <p>以上のことから、工所用資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p>	

正						
第 8.1.1.1-63 表 予測地点における将来交通量 (定期点検時)						
予測地点	路線名	車種	一般車両 (台) A	発電所関係車両 (台) B	合計 (台) C=A+B	発電所関係車両 の割合 (%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	19,656	162	19,818	0.8
		大型車	13,992	30	14,022	0.2
		合計	33,648	192	33,840	0.6
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	9,301	108	9,409	1.1
		大型車	6,826	20	6,846	0.3
		合計	16,127	128	16,255	0.8

注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、平日の 24 時間の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量（平成 31 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.232，大型車 1.000，予測地点②の小型車 1.056，大型車 1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17，22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含む。

誤

第 8.1.1.1-65 表 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の日排出量

予測項目	予測地点	路線名	一般車両	発電所関係車両	合計
窒素酸化物 ($m^3_N / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	7.833	0.020	7.853
	②	主要地方道 名古屋西港線	4.697	0.013	4.710
浮遊粒子状物質 ($kg / (km \cdot 日)$)	①	一般国道 302 号	0.549	0.001	0.550
	②	主要地方道 名古屋西港線	0.330	0.001	0.331

注：予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

誤

オ. 予測結果

予測地点における将来交通量の予測結果は、第 8.1.1.1-68 表のとおりである。

予測地点①（一般国道 302 号）では、発電所関係車両の台数は 192 台であり、発電所関係車両の占める割合は 0.7% である。

予測地点②（主要地方道名古屋西港線）では、発電所関係車両の台数は 128 台であり、発電所関係車両の占める割合は 0.7% である。

第 8.1.1.1-68 表 予測地点における将来交通量の予測結果
(定期点検時)

予測地点	路線名	車種	一般車両	発電所関係車両	合計	発電所関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,022	162	17,184	0.9
		大型車	12,243	30	12,273	0.2
		合計	29,265	192	29,457	0.7
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	9,519	108	9,627	1.1
		大型車	7,589	20	7,609	0.3
		合計	17,108	128	17,236	0.7

- 注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。
 2. 交通量は、発電所関係車両が運行する時間帯（6～21 時）の往復交通量を示す。
 3. 一般車両の将来交通量（平成 31 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.232、大型車 1.000、予測地点②の小型車 1.056、大型車 1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17、22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 4. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

正

第 8.1.1.1-65 表 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の日排出量

予測項目	予測地点	路線名	一般車両	発電所関係車両	合計
窒素酸化物 ($\text{m}^3_{\text{N}} / (\text{km} \cdot \text{日})$)	①	一般国道 302 号	7.833	0.020	7.853
	②	主要地方道 名古屋西港線	3.814	0.013	3.827
浮遊粒子状物質 ($\text{kg} / (\text{km} \cdot \text{日})$)	①	一般国道 302 号	0.549	0.001	0.550
	②	主要地方道 名古屋西港線	0.267	0.001	0.268

注：予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

正

ホ. 予測結果

予測地点における将来交通量の予測結果は、第 8.1.1.1-68 表のとおりである。

予測地点①（一般国道 302 号）では、発電所関係車両の台数は 192 台であり、発電所関係車両の占める割合は 0.7%である。

予測地点②（主要地方道名古屋西港線）では、発電所関係車両の台数は 128 台であり、発電所関係車両の占める割合は 0.9%である。

第 8.1.1.1-68 表 予測地点における将来交通量の予測結果
(定期点検時)

予測地点	路線名	車種	一般車両	発電所関係車両	合計	発電所関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,022	162	17,184	0.9
		大型車	12,243	30	12,273	0.2
		合計	29,265	192	29,457	0.7
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	8,518	108	8,626	1.3
		大型車	6,179	20	6,199	0.3
		合計	14,697	128	14,825	0.9

注：1. 予測地点の番号は、第 8.1.1.1-16 図に対応している。

2. 交通量は、発電所関係車両が運行する時間帯（6～21 時）の往復交通量を示す。

3. 一般車両の将来交通量（平成 31 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.232、大型車 1.000、予測地点②の小型車 1.056、大型車 1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17、22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。

4. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

誤	
<p>7. 環境影響の回避・低減に係る評価 (略)</p> <p>これらの措置を講じることにより、資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.05%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.01%，浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.004%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.003%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める発電所関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号），予測地点②（主要地方道名古屋西港線）ともに 0.7%と小さい。</p> <p>以上のことから、資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p>	

誤					
第 8.1.1.2-8 表 主要な騒音発生源の諸元					
稼働位置	施設名	音源の形態	音響パワーレベル (dB)	施設数	卓越周波数 (Hz)
Ⓐ	タービン建屋	面音源 (46,639 m ²)	59	—	63
Ⓑ	排熱回収ボイラー	面音源 (592 m ² /基)	77	6 基	2,000
Ⓒ	主変圧器	面音源 (221 m ² /基)	77	6 基	125
		(367 m ² /基)		2 基	
Ⓓ	循環水ポンプ	点音源	92	4 台	500
Ⓔ	給水ポンプ	点音源	99	6 台	2,000
Ⓕ	煙 突	面音源 (1,400 m ² /筒身)	70	6 筒身 (3 筒身×2 基)	500, 2,000
Ⓖ	煙 道	面音源 (1,649 m ² /基)	69	4 基	2,000
		(1,052 m ² /基)		2 基	

注：1. 稼働位置の記号は、第 8.1.1.2-10 図に対応している。
 2. 音源の形態の () 内の数字は、面音源の面積を示す。
 3. 面音源の音響パワーレベルは、単位面積当たりの音響パワーレベルを示す。

正
<p>7. 環境影響の回避・低減に係る評価</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>これらの措置を講じることにより、資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.05%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.01%，浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.004%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.003%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める発電所関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.7%，予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.9%と小さい。</p> <p>以上のことから、資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p>

正					
第 8.1.1.2-8 表 主要な騒音発生源の諸元					
稼働位置	施設名	音源の形態	音響パワーレベル (dB)	施設数	卓越周波数 (Hz)
①	タービン建屋	面音源 (46,639 m ²)	59	—	63
②	排熱回収ボイラー	面音源 (592 m ² /基)	77	6 基	2,000
③	主変圧器	面音源 (221 m ² /基)	77	8 基	125
④	循環水ポンプ	点音源	92	4 台	500
⑤	給水ポンプ	点音源	99	6 台	2,000
⑥	煙 突	面音源 (1,400 m ² /筒身)	70	6 筒身 (3 筒身×2 基)	500, 2,000
⑦	煙 道	面音源 (1,649 m ² /基)	69	4 基	2,000
		(1,052 m ² /基)		2 基	
<p>注：1. 稼働位置の記号は、第 8.1.1.2-10 図に対応している。</p> <p>2. 音源の形態の () 内の数字は、面音源の面積を示す。</p> <p>3. 面音源の音響パワーレベルは、単位面積当たりの音響パワーレベルを示す。</p>					

誤

第 8.1.2.1-16 表 気象の状況（月平均値の 10 年平均値）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気 温 (°C)	4.5	6.1	8.9	14.6	19.1	23.3	26.8	28.2	24.9	18.7	12.6	7.2
風 速 (m/s)	3.1	3.3	3.5	3.4	3.1	2.6	2.8	2.8	2.8	2.6	2.6	2.9
相対湿度 (%)	62	60	57	57	64	69	71	68	68	67	66	66
雲 量 (-)	5.6	5.8	5.8	6.3	7.2	8.2	8.0	7.3	7.0	6.2	5.8	5.6

〔「気象庁年報 2001～2010 年」（気象庁，2002～2012 年）より作成〕

誤

第 8.1.2.1-20 表 濁りの発生量（工事開始後 11 か月目）

工事場所	工 種	日施工量 Q	$w_0 \times R / R_{75} \times \alpha$ (kg)	濁りの 発生量 W (t/日)
1～4 号機取水口	鋼矢板引抜	15.6 枚/日	76.6	1.2
7 号系列取水口	浚 渫	650.0 m ³ /日	7.33	4.8
海域工事に伴う濁りの発生量				6.0

注：日施工量Qの値は、日最大施工量とした。

誤

(c) 調査結果

重要な種の調査結果は、第 8.1.3.2-33 表のとおりである。

文献その他の資料調査において確認された重要な種は、刺胞動物 1 種、軟体動物 23 種、節足動物 3 種及び魚類 9 種である。

現地調査において確認された重要な種は、軟体動物 19 種、節足動物 4 種、魚類 1 種及び哺乳類 1 種であり、現地調査による重要な種の確認状況は第 8.1.3.2-34 表のとおりである。

また、調査地域において、注目すべき生息地は確認されなかった。

正

第 8.1.2.1-16 表 気象の状況（月平均値の 10 年平均値）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気 温 (°C)	4.6	6.0	9.0	14.7	19.2	23.3	26.9	28.1	24.8	18.6	12.4	7.2
風 速 (m/s)	3.1	3.3	3.5	3.3	3.1	2.6	2.8	2.8	2.7	2.6	2.6	2.9
相対湿度 (%)	62	60	57	57	64	68	71	67	67	67	65	65
雲 量 (-)	5.7	5.7	5.9	6.3	7.2	8.2	7.8	7.2	7.0	6.2	5.6	5.5

〔「気象庁年報 2001～2010 年」（気象庁，2002～2012 年）より作成〕

正

第 8.1.2.1-20 表 濁りの発生量（工事開始後 11 か月目）

工事場所	工 種	日施工量 Q	$w_0 \times R / R_{75} \times \alpha$ (kg)	濁りの 発生量 W (t/日)
1～4 号機取水口	鋼矢板引抜	15.6 枚/日	76.66	1.2
7 号系列取水口	浚 渫	650.0 m ³ /日	7.33	4.8
海域工事に伴う濁りの発生量				6.0

注：日施工量 Q の値は、日最大施工量とした。

正

(c) 調査結果

重要な種の調査結果は、第 8.1.3.2-33 表のとおりである。

文献その他の資料調査において確認された重要な種は、刺胞動物 1 種、軟体動物 21 種、節足動物 3 種及び魚類 9 種である。

現地調査において確認された重要な種は、軟体動物 19 種、節足動物 4 種、魚類 1 種及び哺乳類 1 種であり、現地調査による重要な種の確認状況は第 8.1.3.2-34 表のとおりである。

また、調査地域において、注目すべき生息地は確認されなかった。

誤

第 8.1.3.2-33 表 重要な種の調査結果

区分	科名	種名	選定基準							確認状況				
			全国				愛知県		名古屋市	文献等	現地調査			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		春	夏	秋	冬
(略)														
軟体動物	リソツボ	タニソツボ	-	-	NT	-	-	-	-	○	-	-	-	-
	ミズゴマツボ	ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ)	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	-	○	-	-
	タマガイ	ネコガイ	-	-	NT	-	-	VU	-	○	-	-	-	-
		アダムズタマガイ	-	-	NT	-	-	CR	-	○	○	-	-	-
	アッキガイ	アカニシ	-	-	-	減少	-	-	-	-	○	○	-	○
	コロモガイ	オリイレボラ	-	-	VU	-	-	EN	EN	○	○	○	○	-
	スイフガイ	カミスジカイコガイダマシ	-	-	VU	-	-	-	-	○	○	-	-	-
	キヌタレガイ	キヌタレガイ	-	-	NT	-	-	NT	-	○	-	-	-	-
	フネガイ	アカガイ	-	-	-	減少	-	-	-	○	○	○	○	○
	イガイ	ツヤガラス	-	-	-	-	-	CR	-	○	-	-	-	-
	ハボウキガイ	タイラギ	-	-	NT	減少	-	NT	NT	○	-	○	-	○
	ツキガイ	ツキガイモドキ	-	-	-	-	-	NT	NT	○	-	-	○	-
		イセシラガイ	-	-	CR+EN	-	-	CR	CR	○	-	-	-	-
	ウロコガイ	オオギウロコガイ	-	-	CR+EN	-	-	-	-	○	-	○	-	-
	チドリマスオ	クチバガイ	-	-	NT	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	ニッコウガイ	ユウシオガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	-	-	○	○	○
		サクラガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	○	○	○	○
		ウズザクラガイ	-	-	NT	-	-	NT	-	○	○	○	○	○
		ゴイサギガイ	-	-	-	-	-	-	NT	○	○	○	○	○
		ヒメシラトリガイ	-	-	-	-	-	-	NT	○	-	-	○	-
マテガイ	マテガイ	-	-	-	-	-	NT	-	○	-	○	○	-	
フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	-	-	NT	-	-	-	-	○	-	○	-	-	
マルスダレガイ	イヨスダレガイ	-	-	-	-	-	VU	VU	○	○	○	○	○	
オオノガイ	オオノガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	-	-	-	-	
	ヒメマスオガイ	-	-	VU	-	-	CR	CR	○	○	-	-	-	
ヒメイカ	ヒメイカ	-	-	-	減少	-	-	-	○	-	-	-	-	
(略)														

- 注：1. 選定基準の記号は、第 8.1.3.2-32 表のとおりである。
 2. 選定基準の「-」は、該当しないことを示す。
 3. 確認状況の「○」は、生息が確認されたことを示す。
 4. 確認状況の「-」は、出現なしを示す。
 5. 文献等は、第 8.1.3.2-31 表の文献を示す。

正

第 8.1.3.2-33 表 重要な種の調査結果

区分	科名	種名	選定基準							確認状況				
			全国				愛知県		名古屋市	文献等	現地調査			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		春	夏	秋	冬
(略)														
軟体動物	リソツボ	タニソツボ	-	-	NT	-	-	-	-	○	-	-	-	-
	ミズゴマツボ	ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ)	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	-	○	-	-
	タマガイ	ネコガイ	-	-	NT	-	-	VU	-	○	-	-	-	-
		アダムズタマガイ	-	-	NT	-	-	CR	-	○	○	-	-	-
	アッキガイ	アカニシ	-	-	-	減少	-	-	-	-	○	○	-	○
	コロモガイ	オリイレボラ	-	-	VU	-	-	EN	EN	○	○	○	○	-
	スイフガイ	カミスジカイコガイダマシ	-	-	VU	-	-	-	-	○	○	-	-	-
	キヌタレガイ	キヌタレガイ	-	-	NT	-	-	NT	-	○	-	-	-	-
	フネガイ	アカガイ	-	-	-	減少	-	-	-	○	○	○	○	○
	イガイ	ツヤガラス	-	-	-	-	-	CR	-	○	-	-	-	-
	ハボウキガイ	タイラギ	-	-	NT	減少	-	NT	NT	-	-	○	-	○
	ツキガイ	ツキガイモドキ	-	-	-	-	-	NT	NT	○	-	-	○	-
		イセシラガイ	-	-	CR+EN	-	-	CR	CR	○	-	-	-	-
	ウロコガイ	オオギウロコガイ	-	-	CR+EN	-	-	-	-	○	-	○	-	-
	チドリマスオ	クチバガイ	-	-	NT	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	ニッコウガイ	ユウシオガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	-	-	○	○	○
		サクラガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	○	○	○	○
		ウズザクラガイ	-	-	NT	-	-	NT	-	○	○	○	○	○
		ゴイサギガイ	-	-	-	-	-	-	NT	○	○	○	○	○
		ヒメシラトリガイ	-	-	-	-	-	-	NT	○	-	-	○	-
マテガイ	マテガイ	-	-	-	-	-	NT	-	○	-	○	○	-	
フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	-	-	NT	-	-	-	-	○	-	○	-	-	
マルスダレガイ	イヨスダレガイ	-	-	-	-	-	VU	VU	○	○	○	○	○	
オオノガイ	オオノガイ	-	-	NT	-	-	NT	NT	○	-	-	-	-	
	ヒメマスオガイ	-	-	VU	-	-	CR	CR	-	○	-	-	-	
ヒメイカ	ヒメイカ	-	-	-	減少	-	-	-	○	-	-	-	-	
(略)														

- 注：1. 選定基準の記号は、第 8.1.3.2-32 表のとおりである。
 2. 選定基準の「-」は、該当しないことを示す。
 3. 確認状況の「○」は、生息が確認されたことを示す。
 4. 確認状況の「-」は、出現なしを示す。
 5. 文献等は、第 8.1.3.2-31 表の文献を示す。

誤

第 8.1.3.2-34 表(1) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
サクラガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 18 において、2 個体が確認された。
		夏	調査地点 18 において、17 個体が確認された。
		秋	調査地点 16 において、2 個体が確認された。
		冬	調査地点 16 において 2 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
ウズザクラガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 16 において 4 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
		夏	調査地点 6 において 1 個体、調査地点 16 において 7 個体が確認された。
		秋	調査地点 16 において 4 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
		冬	調査地点 16 及び調査地点 18 において、各 2 個体が確認された。
(略)			

正

第 8.1.3.2-34 表(1) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
サクラガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 18 において、2 個体が確認された。
		夏	調査地点 18 において、17 個体が確認された。
		秋	調査地点 16 において 2 個体、調査地点 18 において 1 個体が確認された。
		冬	調査地点 16 において 2 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
ウズザクラガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 16 において 4 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
		夏	調査地点 6 において 1 個体、調査地点 16 において 7 個体、調査地点 18 において 16 個体が確認された。
		秋	調査地点 16 において 4 個体、調査地点 18 において 3 個体が確認された。
		冬	調査地点 16 及び調査地点 18 において、各 2 個体が確認された。
(略)			

誤

第 8.1.3.2-34 表 (2) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
イヨスダレガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 9 及び調査地点 12 において、各 1 個体が確認された。
		秋	調査地点 6 において 3 個体、調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 10 個体が確認された。
		冬	調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 2 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	夏	調査地点 1 において 2 個体、調査地点 2 において 22 個体、調査地点 3 において 5 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
(略)			
シバエビ	魚等の遊泳動物 (船びき網調査)	秋	調査地点 1 において、1 個体が確認された。
	魚等の遊泳動物 (底びき網調査)	春	調査地点 1 において 76 個体、調査地点 2 において 43 個体、調査地点 3 において 22 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
		夏	調査地点 1 において 102 個体、調査地点 2 において 11 個体が確認された。
		秋	調査地点 1 において 217 個体、調査地点 2 において 81 個体、調査地点 3 において 368 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 47 個体、調査地点 2 において 47 個体、調査地点 3 において 161 個体、調査地点 4 において 4 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	秋	調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 4 個体、調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 10 個体、調査地点 4 において 2 個体が確認された。
(略)			

注：1. 調査地点の番号は、各調査項目における調査地点を示す。
 2. スナメリの確認状況は、「b. スナメリの生息状況」に示す。

正

第 8.1.3.2-34 表(2) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種 名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
イヨスダレガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 9 及び調査地点 12 において、各 1 個体が確認された。
		秋	調査地点 6 において 3 個体、調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 2 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	夏	調査地点 1 において 2 個体、調査地点 2 において 22 個体、調査地点 3 において 5 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
(略)			
シバエビ	魚等の遊泳動物 (船びき網調査)	秋	調査地点 1 において、1 個体が確認された。
	魚等の遊泳動物 (底びき網調査)	春	調査地点 1 において 76 個体、調査地点 2 において 43 個体、調査地点 3 において 22 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
		夏	調査地点 1 において 102 個体、調査地点 2 において 11 個体が確認された。
		秋	調査地点 1 において 217 個体、調査地点 2 において 81 個体、調査地点 3 において 368 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 47 個体、調査地点 2 において 47 個体、調査地点 3 において 161 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	秋	調査地点 2 において 16 個体、調査地点 3 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 4 個体、調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 10 個体、調査地点 4 において 2 個体が確認された。
(略)			

注：1. 調査地点の番号は、各調査項目における調査地点を示す。
 2. スナメリの確認状況は、「b. スナメリの生息状況」に示す。

誤

第 8.1.4-13 表 クロロフィル a 量の季節別調査結果
〔現地調査〕

(単位: µg/L)

調査期間 採取層	春 季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏 季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋 季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬 季 (平成 23 年 1 月 24 日)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
表 層	2.0	1.0	7.0	33.7	1.7	89.8	3.2	1.1	7.8	6.9	1.1	25.8
中 層	2.2	1.0	3.4	32.2	3.6	65.0	1.9	0.7	4.5	9.8	1.7	24.5
下 層	2.4	0.8	12.2	14.2	2.0	43.4	0.7	0.4	1.2	2.5	0.6	8.9
全 層	2.2	0.8	12.2	27.4	1.7	89.8	2.0	0.4	7.8	6.6	0.6	25.8

注: 採取層は、表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし、水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。

誤

第 8.1.4-14 表 植物プランクトンの季節別出現状況
〔現地調査〕

調査期間 項 目	春 季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏 季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋 季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬 季 (平成 24 年 1 月 24 日)		
	(略)											
主 な 出 現 種 (%)	中 層	珪 藻 綱	<i>Chaetoceros constrictum</i> (17.9)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (45.5)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (46.6)	<i>Skeletonema tropicum</i> (22.2)	Thalassiosiraceae (5.1)					
			<i>Stephanodiscus</i> 属 (8.5)									
		そ の 他	Cryptophyceae (29.2)									<i>Prorocentrum minimum</i> (85.9)
(略)												

注: 1. 出現種類数欄の [] 内の数値は、四季を通じた総出現種類数を示す。
2. 主な出現種欄の () 内の数値は、各層のそれぞれの総細胞数合計に対する細胞数比 (%) を示す。
3. 主な出現種は、組成比率の上位 5 種を示す。ただし、組成比率が 5%未満の種は除いた。
4. 採取層は、表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし、水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。

正

第 8.1.4-13 表 クロロフィル a 量の季節別調査結果
〔現地調査〕

(単位: µg/L)

調査期間 採取層	春 季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏 季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋 季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬 季 (平成 24 年 1 月 24 日)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
表 層	2.0	1.0	7.0	33.7	1.7	89.8	3.2	1.1	7.8	6.9	1.1	25.8
中 層	2.2	1.0	3.4	32.2	3.6	65.0	1.9	0.7	4.5	9.8	1.7	24.5
下 層	2.4	0.8	12.2	14.2	2.0	43.4	0.7	0.4	1.2	2.5	0.6	8.9
全 層	2.2	0.8	12.2	27.4	1.7	89.8	2.0	0.4	7.8	6.6	0.6	25.8

注: 採取層は, 表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし, 水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。

正

第 8.1.4-14 表 植物プランクトンの季節別出現状況
〔現地調査〕

調査期間		春 季 (平成 24 年 4 月 8 日)	夏 季 (平成 23 年 8 月 1 日)	秋 季 (平成 23 年 10 月 27 日)	冬 季 (平成 24 年 1 月 24 日)	
主 な 出 現 種 (%)	中 層	(略)				
		珪藻綱	<i>Chaetoceros constrictum</i> (17.9) <i>Stephanodiscus</i> 属 (8.5) <i>Pseudo-nitzschia</i> 属 (cf. <i>pungens</i>) (7.4)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (45.5) <i>Chaetoceros</i> 属 (44.0)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (46.6) <i>Skeletonema tropicum</i> (22.2) Thalassiosiraceae (5.1)	
		その他	Cryptophyceae (29.2) <i>Prorocentrum minimum</i> (6.7)			<i>Prorocentrum minimum</i> (85.9) Cryptophyceae (5.7)
	(略)					

注: 1. 出現種類数欄の [] 内の数値は, 四季を通じた総出現種類数を示す。
2. 主な出現種欄の () 内の数値は, 各層のそれぞれの総細胞数合計に対する細胞数比 (%) を示す。
3. 主な出現種は, 組成比率の上位 5 種を示す。ただし, 組成比率が 5%未満の種は除いた。
4. 採取層は, 表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし, 水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。

誤					
第 8.1.5-1 表(1) 主要な眺望点候補地の概要					
図中 番号	名 称	方 位 距 離 景観区分	利 用 区 分	現状の 発電設備 の視認性	概 要
(略)					
4	稲永公園	北 約 5.1km 中 景	公 園	○	スポーツセンターやサッカー場、野球場、テニスコート等を備えた運動公園で、園内には名古屋市野鳥観察館や環境省の稲永ビジターセンターが整備されている。
(略)					

誤							
第 8.1.8-3 表 主要な建設機械の稼働状況							
建設機械名	規 格	定格出力 (kW)	燃料の 種類	燃料消費率 (L/(kW・h))	平均稼働時間 (h/(台・日))	稼働台数 ((台・日)/工事期間)	
建設 機 械	(略)						
	ラフテレーンクレーン	20～50t	125～257	軽油	0.103	6.3	11,900
	(略)						
	タイヤローラ	10t	71	軽油	0.100	5.4	4,375
作 業 船	(略)						
	発動発電機	45～800kVA	42～514	軽油	0.170	5.9	27,725
	(略)						
作 業 船	クレーン付台船	35～100t 吊	94～195	軽油	0.219	6.0	1,000
	(略)						

注：1. 燃料の種類が電気の建設機械は、燃料消費率(L/(kW・h))を電力消費率(kWh/(kW・h))と読み替える。
 2. 燃料消費率は、「平成 24 年版 建設機械等損料表」(一般社団法人日本建設機械施工協会, 平成 24 年)及び「港湾土木請負工事積算基準 平成 24 年度改訂版」(社団法人日本港湾協会, 平成 24 年)による。

正					
第 8.1.5-1 表(1) 主要な眺望点候補地の概要					
図中 番号	名 称	方 位 距 離 景観区分	利 用 区 分	現状の 発電設備 の視認性	概 要
(略)					
4	稲永公園	北 約 5.1km 遠 景	公 園	○	スポーツセンターやサッカー場、野球場、テニスコート等を備えた運動公園で、園内には名古屋市野鳥観察館や環境省の稲永ビジターセンターが整備されている。
(略)					

正							
第 8.1.8-3 表 主要な建設機械の稼働状況							
建設機械名		規 格	定格出力 (kW)	燃料の 種類	燃料消費率 (L/(kW・h))	平均稼働時間 (h/(台・日))	稼働台数 ((台・日)/工事期間)
建設 機 械	(略)						
	ラフテレーンクレーン	4.9～50t	125～257	軽油	0.103	6.3	11,900
	(略)						
	タイヤローラ	8～20t	71	軽油	0.100	5.4	4,375
作 業 船	(略)						
	発動発電機	45～600kVA	42～514	軽油	0.170	5.9	27,725
	(略)						
作 業 船	クレーン付台船	35～150t 吊	94～195	軽油	0.219	6.0	1,000
	(略)						

注：1. 燃料の種類が電気の建設機械は、燃料消費率(L/(kW・h))を電力消費率(kWh/(kW・h))と読み替える。
 2. 燃料消費率は、「平成 24 年版 建設機械等損料表」(一般社団法人日本建設機械施工協会, 平成 24 年)及び「港湾土木請負工事積算基準 平成 24 年度改訂版」(社団法人日本港湾協会, 平成 24 年)による。

誤						
第 8.1.9.1-6 表 交通量の調査結果						
調査期間：平成 23 年 11 月 9 日（水）6 時～10 日（木）6 時						
[平 日]						
調査地点	路線名	時間の区分	交通量			
			小型車	大型車	二輪車	合 計
③	一般国道 155 号	昼 間	34,709	11,342	355	46,406
		夜 間	10,510	1,208	117	11,835
		全 日	45,219	12,550	472	58,241

(以下省略)

注：1. 調査地点の番号は、第 8.1.9.1-8 図に対応している。
 2. 交通量は往復交通量を示す。
 3. 時間の区分の昼間は 7～19 時、夜間は 19～7 時を示す。

誤						
予測地点における将来交通量の予測結果						
(工事開始後 19 か月目)						
予測地点	路線名	車 種	一般車両	工事関係車両	合 計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	15,100	532	15,632	3.4
		大型車	12,788	408	13,196	3.1
		合 計	27,888	940	28,828	3.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	9,092	152	9,244	1.6
		大型車	7,552	168	7,720	2.2
		合 計	16,644	320	16,964	1.9

注：1. 交通量は、工事関係車両が運行する時間帯（5～20 時）の往復交通量を示す。
 2. 一般車両の将来交通量（平成 27 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.104、大型車 1.000、予測地点②の小型車 1.025、大型車 1.029）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17、22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 3. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

誤
<p>(評価の概要)</p> <p>工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び粉じん等の影響を低減するため、左欄の環境保全措置を講じることにより、工事用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.26%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.09%、浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.04%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.03%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める工事関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）が 3.3%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 1.9%と小さい。</p> <p>以上のことから、工事用資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p> <p>(略)</p>

正						
第 8.1.9.1-6 表 交通量の調査結果						
調査期間：平成 23 年 11 月 9 日（水）6 時～10 日（木）6 時						
[平 日]						
調査地点	路線名	時間の区分	交通量			
			小型車	大型車	二輪車	合計
③	一般国道 155 号	昼 間	30,255	9,409	316	39,980
		夜 間	14,964	3,141	156	18,261
		全 日	45,219	12,550	472	58,241

(以下省略)

注：1. 調査地点の番号は、第 8.1.9.1-8 図に対応している。
 2. 交通量は往復交通量を示す。
 3. 時間の区分の昼間は 7～19 時、夜間は 19～7 時を示す。

正						
予測地点における将来交通量の予測結果						
(工事開始後 19 か月目)						
予測地点	路線名	車 種	一般車両	工事関係車両	合 計	工事関係車両の割合
			(台) A	(台) B	(台) C=A+B	(%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	15,100	532	15,632	3.4
		大型車	12,788	408	13,196	3.1
		合 計	27,888	940	28,828	3.3
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	8,118	152	8,270	1.8
		大型車	6,096	168	6,264	2.7
		合 計	14,214	320	14,534	2.2

注：1. 交通量は、工事関係車両が運行する時間帯（5～20 時）の往復交通量を示す。
 2. 一般車両の将来交通量（平成 27 年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車 1.104、大型車 1.000、予測地点②の小型車 1.025、大型車 1.029）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成 17、22 年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 3. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

正
<p>(評価の概要)</p> <p>工所用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び粉じん等の影響を低減するため、左欄の環境保全措置を講じることにより、工所用資材等の搬出入に伴う窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.26%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.09%、浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.04%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.03%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める工事関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）が 3.3%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 2.2%と小さい。</p> <p>以上のことから、工所用資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p> <p>(略)</p>

誤			
重要な種の調査結果の概要			
区 分	文献その他の資料調査		現地調査
	文献調査	予備調査	
哺乳類	6種	—	—
鳥 類	58種	コアジサシ, ミサゴ, アカハラ	コアジサシ, ミサゴ, ハイタカ, オオタカ, サシバ, アオバズク, チョウゲンボウ, ハヤブサ, アカハラ, コサメビタキ, ケリ
爬虫類	6種	—	—
両生類	4種	—	—
昆虫類	33種	—	—

誤			
海生動物の重要な種の調査結果			
項 目	文献調査	現地調査	海生動物の重要な種
刺胞動物	1種	0種	ムラサキハナギンチャク
軟体動物	23種	19種	タニシツボ, ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ), ネコガイ, アダムズタマガイ, アカニシ, オリイレボラ, カミスジカイコガイダマシ, キヌタレガイ, アカガイ, ツヤガラス, タイラギ, ツキガイモドキ, イセシラガイ, オオギウロコガイ, クチバガイ, ユウシオガイ, サクラガイ, ウズザクラガイ, ゴイサギガイ, ヒメシラトリガイ, マテガイ, ウネナシトマヤガイ, イヨスダレガイ, オオノガイ, ヒメマスオガイ, ヒメイカ
節足動物	3種	4種	シバエビ, サメハダヘイケガニ, モクズガニ, チゴガニ
魚 類	9種	1種	ウナギ, アユ, サツキマス, カマキリ (アユカケ), ウツセミカジカ (回遊型), カワアナゴ, ヒモハゼ, ウキゴリ, チチブ
哺乳類	0種	1種	スナメリ

正			
重要な種の調査結果の概要			
区分	文献その他の資料調査		現地調査
	文献調査	予備調査	
哺乳類	6種	—	—
鳥類	58種	コアジサシ, ミサゴ, アカハラ, ケリ	コアジサシ, ミサゴ, ハイタカ, オオタカ, サシバ, アオバズク, チョウゲンボウ, ハヤブサ, アカハラ, コサメビタキ, ケリ
爬虫類	6種	—	—
両生類	4種	—	—
昆虫類	33種	—	—

正			
海生動物の重要な種の調査結果			
項目	文献調査	現地調査	海生動物の重要な種
刺胞動物	1種	0種	ムラサキハナギンチャク
軟体動物	21種	19種	タニシツボ, ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ), ネコガイ, アダムズタマガイ, アカニシ, オリイレボラ, カミスジカイコガイダマシ, キスタレガイ, アカガイ, ツヤガラス, タイラギ, ツキガイモドキ, イセシラガイ, オオギウロコガイ, クチバガイ, ユウシオガイ, サクラガイ, ウズザクラガイ, ゴイサギガイ, ヒメシラトリガイ, マテガイ, ウネナシトマヤガイ, イヨスダレガイ, オオノガイ, ヒメマスオガイ, ヒメイカ
節足動物	3種	4種	シバエビ, サメハダヘイケガニ, モクズガニ, チゴガニ
魚類	9種	1種	ウナギ, アユ, サツキマス, カマキリ (アユカケ), ウツセミカジカ (回遊型), カワアナゴ, ヒモハゼ, ウキゴリ, チチブ
哺乳類	0種	1種	スナメリ

誤						
予測地点における将来交通量の予測結果 (定期点検時)						
予測地点	路線名	車種	一般車両 (台) A	発電所関係車両 (台) B	合計 (台) C=A+B	発電所関係 車両の割合 (%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,022	162	17,184	0.9
		大型車	12,243	30	12,273	0.2
		合計	29,265	192	29,457	0.7
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	9,519	108	9,627	1.1
		大型車	7,589	20	7,609	0.3
		合計	17,108	128	17,236	0.7

注：1. 交通量は、発電所関係車両が運行する時間帯（6～21時）の往復交通量を示す。
 2. 一般車両の将来交通量（平成31年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車1.232、大型車1.000、予測地点②の小型車1.056、大型車1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成17、22年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 3. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

誤
<p>(評価の概要)</p> <p>資材等の搬出入に伴う窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び粉じん等の影響を低減するため、左欄の環境保全措置を講じることにより、工事用資材等の搬出入による窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.05%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.01%、浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道 302 号）が 0.004%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が 0.003%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める発電所関係車両の割合が、予測地点①（一般国道 302 号）、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）ともに 0.7%と小さい。</p> <p>以上のことから、資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

誤						
交通量の調査結果						
調査期間（平日）：平成 23 年 11 月 9 日（水）6 時～10 日（木）6 時 (単位：台)						
調査地点	路線名	時間の区分	交通量			
			小型車	大型車	二輪車	合計
③	一般国道 155 号	昼間	34,709	11,342	355	46,406
		夜間	10,510	1,208	117	11,835
		全日	45,219	12,550	472	58,241

注：1. 交通量は、往復交通量を示す。
 2. 時間の区分の昼間は 7～19 時、夜間は 19～7 時を示す。

正						
予測地点における将来交通量の予測結果 (定期点検時)						
予測地点	路線名	車種	一般車両 (台) A	発電所関係車両 (台) B	合計 (台) C=A+B	発電所関係 車両の割合 (%) B/C
①	一般国道 302 号	小型車	17,022	162	17,184	0.9
		大型車	12,243	30	12,273	0.2
		合計	29,265	192	29,457	0.7
②	主要地方道 名古屋西港線	小型車	8,518	108	8,626	1.3
		大型車	6,179	20	6,199	0.3
		合計	14,697	128	14,825	0.9

注：1. 交通量は、発電所関係車両が運行する時間帯（6～21時）の往復交通量を示す。
 2. 一般車両の将来交通量（平成31年）については、現況交通量に伸び率（予測地点①の小型車1.232、大型車1.000、予測地点②の小型車1.056、大型車1.064）を考慮した交通量を示す。伸び率は、平成17、22年に実施された「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査」（国土交通省）の結果から設定した。
 3. 小型車の交通量には、二輪車を含まない。

正
(評価の概要)
<p>資材等の搬出入に伴う窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び粉じん等の影響を低減するため、左欄の環境保全措置を講ずることにより、工事用資材等の搬出入による窒素酸化物（二酸化窒素に変換）の寄与率は、予測地点①（一般国道302号）が0.05%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が0.01%、浮遊粒子状物質の寄与率は、予測地点①（一般国道302号）が0.004%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が0.003%と小さい。また、粉じん等については、予測地点の将来交通量に占める発電所関係車両の割合が、予測地点①（一般国道302号）が0.7%、予測地点②（主要地方道名古屋西港線）が0.9%と小さい。</p> <p>以上のことから、資材等の搬出入に伴う大気質に及ぼす環境への影響は小さいものと考えられ、実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価する。</p>
(略)

正						
交通量の調査結果						
調査期間（平日）：平成23年11月9日（水）6時～10日（木）6時 (単位：台)						
調査地点	路線名	時間の区分	交通量			
			小型車	大型車	二輪車	合計
③	一般国道 155 号	昼間	30,255	9,409	316	39,980
		夜間	14,964	3,141	156	18,261
		全日	45,219	12,550	472	58,241

注：1. 交通量は、往復交通量を示す。
 2. 時間の区分の昼間は7～19時、夜間は19～7時を示す。

誤

重要な種の調査結果の概要

区 分	文献その他の資料調査		現地調査
	文献調査	予備調査	
哺乳類	0種	—	—
鳥 類	8種	カンムリカイツブリ, コアジサシ, ミサゴ, オオタカ, ハヤブサ	カンムリカイツブリ, コアジサシ, ミサゴ, ツミ, ハイタカ, オオタ カ, チョウゲンボウ, ハヤブサ, ケリ
爬虫類	0種	—	—
両生類	0種	—	—
昆虫類	2種	コオイムシ, ミカワオサムシ	コオイムシ, ミカワオサムシ

正

重要な種の調査結果の概要

区 分	文献その他の資料調査		現地調査
	文献調査	予備調査	
哺乳類	6種	—	—
鳥 類	58種	カンムリカイツブリ, コアジサシ, ミサゴ, オオタカ, ハヤブサ	カンムリカイツブリ, コアジサシ, ミサゴ, ツミ, ハイタカ, オオタ カ, チョウゲンボウ, ハヤブサ, ケリ
爬虫類	6種	—	—
両生類	4種	—	—
昆虫類	33種	コオイムシ, ミカワオサムシ	コオイムシ, ミカワオサムシ